

観察園「カエデの森」をつくります

若松良一

カエデの森とは

今年度、博物館構内に観察園「カエデの森」を整備することになりました。現在、埼玉県内では、日本にある28種のカエデのうち、21種が確認されていて、種類の多さは全国でもトップクラスです。このことは、埼玉県の自然環境の豊かさを示しています。

「カエデの森」には、奥秩父などに自生しているカエデの原木を移植する計画です。また、園内には歩きやすい散策路を設け、解説板を整備します。ゆっくり歩きながら観察して頂くことによって、バラエティーに富んだカエデの葉の形や、種子の落ち方、紅葉のしかたなどについて学ぶことができます。このため、博物館では「カエデの森」を単なる庭園ではなく、屋内展示と結びつけた屋外生態展示として位置付けることにしています。

カエデの多彩さ

カエデは約6,000万年前にムクロジ科から分かれて、主に北半球の各地に広がったため、種が多様化しました。たとえば、葉の形状は、

- ① 切れ込みのない一枚葉（チドリノキ・ヒトツバカエデ）
- ② 三つに切れ込む一枚葉（ウリカエデ・テツカエデなど）
- ③ 五つ以上に切れ込む一枚葉（イロハモミジ・ユミネカエデなど）
- ④ 小さな葉が山字形に3枚集まっているもの（ミツデカエデ・メグスリノキ）に分類することができます。紅葉の美しい代表的なカエデで

あるイロハモミジの印象を強く受けている多くの人々にとって、①・②・④もカエデといわれたら、「エッ 本当？」となるのではないのでしょうか。

また、垂直分布の違いがあり、テツカエデ・ミネカエデ・オガラバナは、標高1,400m以上の高地にしか生育していません。

カエデの楽しみ方

カエデは冬の落葉前に、紅や黄色に紅葉します。四季の変化に富んだわが国では、万葉の昔から、紅葉を愛でて、紅葉狩りを楽しみ、和歌を詠むといった風習が、今日にまで引き継がれています。博物館前の月の石広場には、イロハモミジとオオモミジが植栽されていますが、紅葉のころには、長瀨町観光協会によるライトアップが行われ、多くの観光客を集めています。夜空をバックに、浮かび上がるカエデの姿は息をのむほどの美しさです。この時期には、博物館では、土日と祝日に開館時間延長を行って、お客様をお迎えしています。しかし、若葉のころに咲くカエデの可憐な花、緑陰を作る夏葉もなかなか美しいものです。

「カエデの森」の整備事業は、館内の選抜チームが事務局となり、森林生態学や林学・植物園・造園・観光の専門家からなる外部委員会の指導・助言を受けながら、進めております。リニューアルオープンの際には、長瀨の新名所として皆さまをお迎えできるよう、頑張っておりますので、よろしくお願いします。

(わかまつ りょういち・学芸主幹)



ヒトツバカエデ



ウリカエデ



イロハモミジ



ミツデカエデ